

気まぐれ切手帖



2013年11月号 No.1

先月の出品状況1

クダを巻いても仕方がないので、いきなりドドンっ！と出品したものを解説してしまう。

- 132 使用済 夏季オリンピック 100種類 300円

これは昨年のロンドン・オリンピックのシーズンにあわせて出品したが、落札されないまま流れたものの、今回タイミング良く東京オリンピックも決まったので、中身を少し変えて出品してみた。どこを変えたのか素人にはわかりませんが... ではなく、誰にもわかりませんが、各国の1964年の東京オリンピックがその後の整理を経て、手厚くなったのです。

我ながら、出品準備をしつつ、やはりオリンピックは国毎のプロパガンダになり得るだけに切手も眺めているだけで妄想が広がり、やっぱり面白いかも？と思ってしまった。特におススメは仏独（あ、独は西ドイツ）の柔道で、しめし合わせたのか、両国とも背負い投げの似たような図案（1枚目上から3段目の右側）。よっぽど手元に残しておこうかと思ったが、これを外すと出品枚数が100枚にならないので、断念。まあ、欲しくなれがまた手に入るでしょう。





● 133 使用済 冬のスポーツ（雪、氷） 35種類 100円

ここしばらく、トピカルとしてのスポーツの整頓に注力していたので、微妙な枚数であったが出品してみた。勘の良い方ならお気づきかもしれないが、雪上のスポーツ、つまりスキーの枚数が少ない... 最近の私はスキーへの関心度合いがかなり高いので、多くを手元に残してしまった（告白）。私のExchange パートナーはヨーロッパに多く、スキーはとてもヨーロッパなスポーツなので（独自の解釈）、腰が入っていない滑りの図案でも愛おしく、アルペンなのかジャンプなのかクロカンなのか、お国柄も楽しめるかも！と期待しているため手放せなかった。

ついでに告白すると、フィギュアへの未練はなかったのであるが、意外にアイスホッケーの切手があり、これも手元に残すか否か考えたが、これを外すと何だか貧弱な内容にも思えたので、氷は氷で全て出品することにした。アイスホッケーだけでなく、ボブスレーも面白いかも... とか考え始めたら出品する意味もなくなりそうで。なお、スピードスケートは（すみません個人的には）関心薄く、フィギュアよりも意識しなかった。



● 134 使用済 郵便、切手、郵趣いろいろ 60種類 200円

これは以前、出品用にと中途半端にまとまっていたのを潔く、というよりダラダラ棚上げしない（私の典型的な性格）ようにと、踏み切ってみた。個人的に嫌いでないトピックであるとか思いつつ、それでいてダラダラまとまりつかずのコレクションになりそうなので、思い切った。そ、それでも実は英国の2002年発行郵便ポスト5枚シリーズのうち3枚が手放し難く、枚数もちょうど60枚にまとまったので、手元に残してしまった。5枚揃ったらお気に入りとして紹介したいかも。

ということで、切手の切手とか郵趣とか、日本で言えば「ふみの日シリーズ」「国際文通週間」「切手趣味週間」とか集めるとテーマが大きいから、郵便ポストで集めてみようかと検討中。



先月の出品状況2

- 137 使用済 ヨーロッパ諸国よりEuropa 34種類

ヨーロッパ諸国が毎年一つのテーマに基づいて発行されているらしい（というのは、私はコレクション収集しつつ推測しているだけ）ユーロパ切手である。むかしは同じデザインを各国なりのテイストで表現していたようだけど、近年はデザインも異なっている。どういうルールがあるかは不明ですが、お国柄が出ているし、わかりやすいテーマなのでつい集めてしまう。



- 136 使用済 アメリカの切手 59+2種類

枚数が中途半端だったので、普通切手2枚を付けたのであるが、これは両方ともドワイト・デヴィッド・アイゼンハワー大統領。よく見るまでもなく、実は大振りと中振りのアイゼンハワー大統領切手の含まれている。アメリカは結構大統領切手があるので、それをテーマに集めるのも楽しいかも...という私からのメッセージだったりするのだが、これに共感して落札してくれる方はいるかしら？

wikipediaのマミー・アイゼンハワー大統領夫人のページに若かりし気ころの二人の写真があるけど、若いデヴィッドは、かなりイケメンだったのではと確信している。きっと戦時中という厳しい時代だったにも関わらず、お金持ちの家に生まれたマミーはアメリカ大統領をダンナに持ち、82歳と長寿を全うし勝ち組な人生に違いない！と僻み根性丸出しなことを推測してしまった。器の小さい自分。



● 135 使用済 フィンランドの切手 40種類

重複が溜まってきたので、ちょっと出品してみた。広い年代から浅くの内容だが、実は結構普通切手が少なくないかも。フィンランドは、記念切手というより普通切手の方が割と意匠や図案が素敵だったりする気がする。確かに記念切手よりも、普段使いで発行枚数も多い普通切手の方が人々の目に触れる機会も多いのだから、想像力が掻き立てられるデザインの方が需要が増えるのでは？とか思う。

さて、どれが普通切手でしょうか？



先月の出品状況3

- 138 使用済 チェコスロヴァキアの切手 40種類

これまでに何回か出品しているのですが、それでも重複しているチェコスロヴァキアの切手。どれも魅力的で一層のことコンプリート（全部集める）を目指そうかと思ってしまうが... そういうのは性格上は向いていないしな。

むしろ、お気に入りの蘊蓄傾ける方が好きです。ということで、この後のお気に入りを語るところで、早速チェコスロヴァキアから始めますので、参考までにこの国の切手を眺めてみてくださいいな。



- 139 使用済 世界各国からのお花+実の切手 84種類

花に関する切手は、正直に言って切りがない。日本の切手も、とくに「ふるさと切手」と呼ばれる都道府県から発行されている切手は、花や桜に関わるものが多いこと多いこと。

その分、多いだけにその人その人なりの感性で、いろいろな視点からコレクションできるかも。クリエイティブな人ならコラージュなり何なりと応用も効くかも。あいにく、トピカル手法の収集は、蘊蓄好きの私にとっては不向きである。





初回だし、これまで触れたこともなかったので、ここで少しなぜオークションを始めたのか解説してみよう。

パンドラの箱を開けたのが2010年12月だから、もうじき3年になろうとしている。そのパンドラ箱には、コレクションを止めた友人たちから吸収合併した分やら、切手収集が趣味であることを知っている家族や友人から旅行土産にいただいた分やら、自分でも各地で買い集めたり交換したものが、ただ無造作に入っていた。

そのうち整理しようと早10数年、もはや私にとって10年という時間は先週か来週くらいの感覚である（大袈裟なあ）。きっかけは、職場で年内中に5日連続休暇を取得せよと厳命され、予定もなく作る気もなかった私は、このパンドラ箱を空けることにしたのであった。

まずは、ひたすら国別→年代別にすることに努めた。初日ははまってお部屋の床暖房に座りながらアメリカに取り組んだ。しかし2日目からは早くも疲れてしまって、毎日気の向くまま適当に、量の多さと混沌さに圧倒されながら「一層このまま燃えるゴミに捨ててしまおうか」とか、どう整理してよいかわからない気持ちと戦い続けて私の連続休暇は終わった（はず）。

その後、短絡的ではあるが重複しているものやお気に入りに該当しないものを処分する方法として、

- オークション
- Exchange

に至った。ということで、それから3年近くも「整理→入手→処分」を繰り返している。減っているような増えているような、それでも、何となく自分の好みを中心に（まさに）コレクションが形成されてきつつあるような気もしている。正直、オークションや交換することよりも、郵便を出したり受け取ったりすることに喜びを見出していたりするかも。

ということで、今後（また）この辺の活動ぶりやノウハウを誰とはなしに紹介してみたい。次回は少し具体的なノウハウを案内してみる。乞うご期待。

宣伝です。興味ある方はご覧下さい。ヨロシク。

[ヤフオク「私のページ」](#)

アメリカから

世界各国の交換パートナーとの活動を停止していたが、ボチボチと再開させた。ところ、久しぶりにアメリカのJoeから100枚が届いた。



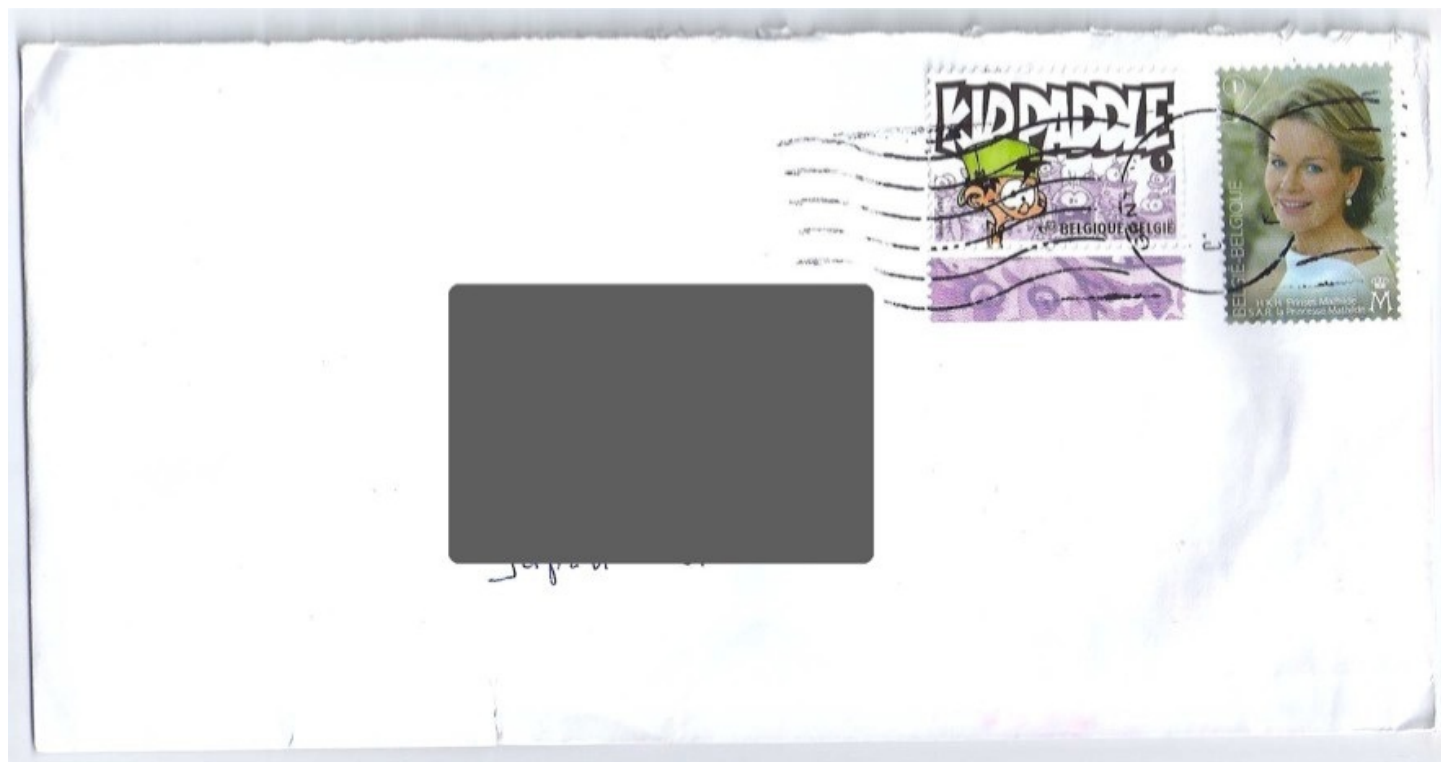
彼とは、2011年始の交換活動当初からの付き合いだから、かなり古い方である。これまでのやり取りで、「趣味にたっぷり時間が費やすことできる」おじいちゃんであることや、日本の切手をほとんど持っていることなどはわかっている。私の勝手な推測では、日本が嫌いでない気の長い悪くないけどボケてもいない好々爺という感じ。以前はwant listを送りつけられていたものを、私がコツコツ探して送ってあげていた。

結構レア切手（電子郵便切手とか）も送ってあげたものの、手間暇がかかる相手なので、私として疎遠であったが、向こうは「急いでないから気長に付き合え！」というニュアンスのメールを送ってくるので、適度に真面目にそれでもってガラガラできる私だからこそ、今も続いているのかもしれない。

とにかく、真面目なコレクターだし、こちらが良い切手を送れば、年毎にコンプリートに送ってきてくるので、最近この「気まぐれ切手帖」を再発行するに際して、今後は真面目にお相手しようと思いつけているのである。

ベルギーから

そんなこんなで、次のお相手はどうしようかと考えていたら、さらに別なる国際郵便が届いた。ぱっと見、ベルギーの切手だったので、現在交渉中の方がフライングして送ってきた？と思ったが、よくよく考えてみれば、彼はオランダ人であった。となれば... 誰だ？



裏面の送信者を見ると、何となく見覚えのあるお名前である。中には手紙とベルギーとドイツの切手が100枚入っていた。手紙の内容は概ね次のような感じ。

『親愛なる郵趣フレンド方

あなた方の住所をインターネットで知り、私はあなた方が切手を集めていることを知っている。だから、ここに100枚の切手を送り、あなた方が喜ぶことを期待し、交換に応じてくれることを楽しみにしている』

もちろん、両国の切手に興味を持っている私は嬉しかったので、早速応じることにした。これをきっかけに、彼とはまた定期的な交流が続くとよいな。それと、この封書に貼ってある右の切手はベルギーのロイヤル・ファミリー（王族一家）モノと推測する。まさに私のコレクションのターゲットだけに、やる気が出る。

と、思いつつ、他にもこちらが送るべき相手がまだ、ルーマニアのエドゥムンド、フィンランドのアリ、台湾のジョージ、そしてフランスのジョゼー（女性、三児のママ）がいるんだな。新規開拓する前に、こちらで止まっているお返しをしないと。かつ、交渉中のオランダの彼と、新たなパートナー英国のナンダ（女性？）の対応もしないとね。子供の頃に夢中になった、ペンパル活動を思い出すわ。

早速、彼にはお返しの郵便出しました。細々続くとよいな。

チェコはここから好きになった

切手商の店頭にあった mint（未使用）アルバムを流し見していたときに見つけたのが、この切手であった。1975年発行の5枚シリーズの熱帯魚である。大振りばかりでなく、その極彩色と日本切手では見られない凹版印刷の美しさ... 大人の女性マンガの一コマに現れそうなりアルさ。



とにかく、無条件に購入した後、つくづく眺めてみると年号と思われる数字と人名らしき文字が並んでおり、どの切手にも存在したのが「J. LISLER」というお方であった。そこで、早速（こういふときに便利な）インターネットで調べてみると、あっさり正体は判明した。

Josef Liesler (1912-2005)

日本版wikiにはいらっしやらないが、英語版wikiにはいらっしやるので、業界では有名な方であるには違いない。直訳すると「シュルレアリスムな画家」という記述があるが、画像右下はいかにもそれっぽい。ちなみに、この切手は、Lieslerさんの切手に魅了されたものの、次の1枚をどう入手すべきか、ヤフオクに出品されている切手をダラダラ眺めていたところ、偶然にいかにも！なこちらに遭遇し落札せずにはいられなかったものである。限りある大きさであった画像を目を凝らしてみれば、Lieslerさんのお名前も確認できたし。だけど、実はこの切手は遠路はるばる上海からやってきたので、時間もかかったし郵送費も落札金額を上回りましたのです...。テーマはご覧のとおり anti-smoking (禁煙キャンペーンという感じ)ですが、日本では期待できない図案に、私はヨーロッパを感じてしまった。

そこで、ぼったくられることを承知の上で、品揃え豊富と言われる某切手商を訪れ、Lieslerさんのお名前を探して購入したのが、UNESCOシリーズです。これは1971年発行で、こう掲載してしまうと大きさがわかりにくいですが、とにかく大きい。これはもはや実用というよりは、外貨獲得目当てのプロパガンダですな。購入したのはもう3年近く前になるので、その心は忘れてしまったが、その大きさから逃れられなかったのかもしれない。図案はそれほど魅了されなかったが、上のanti-smokingでもそうですが、意外と紫×緑の色使いが好きそう。そして、そういう感覚がまた新鮮にも思えた。



ついで... ではなく、せっかく手元にあるので1974年のUNESCOも掲載しておくが、こちらも大きさとよい、販わりとよい、実用性は乏しいですが、同じ料金なのであれば、こういう切手が貼られた国際郵便を受け取ってみたい。

大きさがわかりませんが、他は並べて押し込んで掲載。



マリオネットのような操り人形が放つ幻想的な世界が似合いそうな図面、いかにも私の中ではチェコ炸裂！である。2002年の冬、私はチェコのプラハを旅行してきたのですが、かの地は近代化に乗り遅れたというより、ある種、近代に毒されない路面電車が似合う、寒くも（冬だったので）それでいてシュルレアリスムな土地なのです。やっぱり、カフカですね。

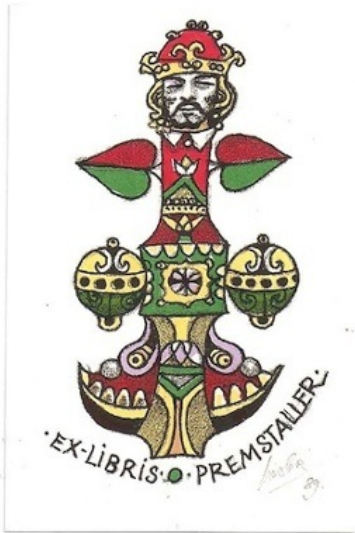
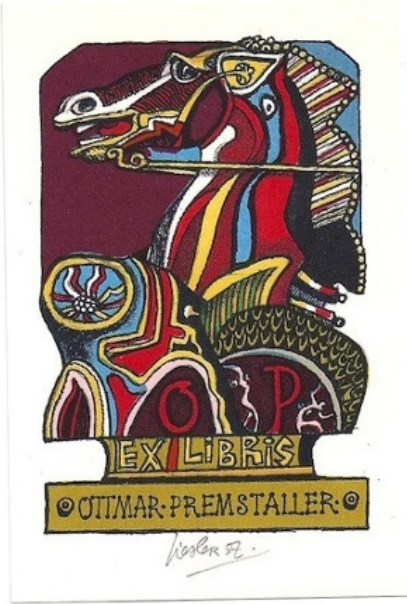
下は1979年のUNESCOですが、この大きさ（日本の普通切手を横に1.8枚分くらいかな？）になると、少しは実用性の使命も感じられる。これは残念ながら4枚セットのうち1枚しかないので、残りの入手を老後に向けての楽しみとしておく。



で、とりあえず前のめりで、Lieslerさんの作品を立て続けに見てみたが、もう少しこの方について私なりの解釈を述べてみる。会社勤めの身なので、情報源はただかネットなのだから、強いてびっくりするような話はないでしょうが、せっかくなのでネット検索の手間を省くくらいの話は提供したい。

調べて「ふうーん」と思ったのは、彼はもちろんチェコスロバキア時代に多くの切手をデザインしていたが、実は「exlibris designer」でもあったようで、これは何者？と調べたところ、「蔵書票作家」とのこと。蔵書票とは、恐らく平均的な日本人にとっては馴染みが薄いモノではないかと思っているのだけど、会社でお弁当食べつつネット検索して少し調べてみるだけでも、それほどマニアックなモノでもないようで、ポロポロと情報は出てくる。要するに（本当であれば）高価な稀覯本やお気に入りの本に「これは●●蔵書」（●●は持ち主の名前）という意味で、特注した図案を印刷したカードに名前を銘打って貼っておくものらしく、ヨーロッパではメジャーなグッズで、本から剥がしたものでなく、多分コレクション用に作った蔵書票も集めるなり眺めるなりと楽しむ趣味があるようだ。一方、日本の古書と言えば、ヨーロッパの革張りな本と異なり、その手の方でない人から見れば、古紙同然な姿をしている場合が多く、とても特別な蔵書票など... と素人は決めつけてしまいそうだが、まあ、好きな人は好きらしく、結構作るなり作らせるなりと、多種多様に存在している。ヤフオクでもすぐ見つかるし、どこぞのギャラリーで新作発表をしたりもしている。

さて、随分前置きが長くなったが、Lieslerさんはヨーロッパのアーティストとして、切手ばかりではなく蔵書票作家でもあったということで、実はeBayで調べてみれば、数十件くらいはすぐに見つかる。切手に比べれば、公共性が乏しい分、特定な人の好みに依存したデザインを作成できる分、テイストも濃厚だ。で！実は思わず、私はドイツとチェコのディーラーから落札してしまったのがこれらです。



切手だけでさえ持て余しているのに、こんなことに散財している場合じゃない！とわかってはいたが、最悪損失覚悟で入手してみた。無事に商品は到着した。それほど値段が張るものでもなかったが、一見して印刷もあれば、一応エディションナンバーっぽい記入や鉛筆による直筆サイン入りもある。



と、Lieslerさんの蔵書票作家としての一面を軽く触れようと思ったら、自分のeBay落札披露になってしまった！（恥）

検索窓に「Josef Liesler」と入力して画像検索をしてみると、切手ばかりではなく、Lieslerさんの多くの素敵な作品を眺めることができる。本当にインターネットは便利です。

私の内容ない解説よりは、興味を抱いた方は是非そちらをご覧ください。以降では、せっかくなので、手持ちの my Liesler collection を気まぐれにご紹介しておこう。

ネットからの引用も交え、少しLieslerさんの作風について個人的な見解を述べてみる。なお、彼に関するネット記事は主にチェコ語だったりするので、便利なネット翻訳で英語か日本語に変換してみた。意外と意味が通じる、恐るべしネット翻訳。

言葉で表現するのは容易でないが、Lieslerさんの作風は独特なスタイルがあると思う。割と一見して、これはLieslerさん？と思う。それを裏付けてくれるようなネット記事は「終末論的なモンスターの画像やファントム、機械と結合した人々、獣と人間を脅かすモンスターを描いた。」という内容。つまり、やや幻想的なオブジェクトを彼なりのテイストで結合して表現している。そして、その表現には緻密で精微、それでいてコケティッシュな雰囲気も持ち合わせているのが特長だと思う。きっと人生のピークに向かって前進しているときに第二次世界大戦のチェコという厳しい環境におかれた経験も大きく寄与しているに違いないと推測する。

加えて、彼は93歳という年齢まで長生きし、死ぬ直前まで描き続けていたらしい。70年以上のキャリアを持ち続けるというのは、気持ちの面でも好奇心を失わなかったりとか不断の努力も必要だと思うが、それをなし得ることができれば、得られるものも少なくない。とにかく、何でも長く続けることだけでも意義を感じる私は、それだけで十分素晴らしいことだと思う。

これは思い切り、ソ連国旗のマークである鎌とトンカチが入っている「赤いシリーズ」（私が命名。共産圏テーマやプロパガンダ臭がする切手をまとめてそう表現）で、1971年発行「党大会」らしい。Lieslerさんには珍しい？と思われる「赤い切手」な一枚。



これはご覧のとおり、メキシコ・オリンピックの切手であるが、装飾多寡とすらとれる。通常、どちらの国のオリンピック切手も、パーンと全体の70%以上にスポーツしている人々が表現され、その回りにタイトルやら金額や国名が邪魔にならぬよう、ちりばめられているのに、これらの切手は異なる。

概ね、Lieslerさん、ひいてはチェコスロバキア国民が抱いているメキシコのイメージが描かれているのでしょうか？

だけど、理屈抜きでこういう切手好きです。





こちらは、1969年発行の「万国郵便連合（Universal Postal Union）会議」の記念切手らしいが、TOKIOとあるのが気になる。東京のことでしょうか？（裏が取れておりません）あまり彼らしい幻想的な雰囲気薄い、とても実務的なデザインだと思う。テーマからして、彼のインスピレーションが刺激されなかったかな？



1965年発行の「Jan Hus（ヤン・フス）」1415年に火刑で亡くなったボヘミア出身の宗教家らしい。テーマといい、図案といい、彼らしい一枚。「教育、科学、文化の発展と推進を目的」としらユネスコ向きのテーマでもあるかも。



こちらは、スロバキアの首都ブラチスラバとチェコの首都プラハを描いた切手。チェコスロヴァキアの切手は都市を図案にした切手多いのであるが、どれもとても絵になっている。それだけ街が、現代の毒に犯されていないのでしょうか。東京なんて、何かもうあまり絵にならない気もする。

これ一応、かの国では普通切手らしい。



これは都市を少し空間的に分解して再構築している。こういう手法の切手、多いです。



これは1995年発行の昆虫シリーズ3枚ものの1枚。もうチェコスロバキアではなく、チェコ共和国である。テーマそのものをストレートに描いているけど、色使いが彼らしいかな。やっぱり紫が好きなようです。緑の補色である黄と紫の組み合わせも良い。



最後に（偉そうに）総括してみよう。

私の経験からルーマニア、ポーランド、（ロシアではなく）ソ連などの東欧諸国というべきか、旧共産圏諸国はCTO（cancel to order）つまり使用されず消印を押してしまう注文消しの切手が多い。実用より輸出商品みたいなモノでしょうか。チェコスロバキアにも注文消しが多いのかどうかは不明であるが、私の手元にある切手の多くは、（注文消しのような）使用済みにも関わらず新品！みたいな切手が少ない。

私のコレクションの東欧諸国分は、ルーマニアにいるエドゥムンドと交換した切手であるが、どうも彼はコレクターという感じがしない相手である。（彼については、いずれ交換パートナーとして紹介しよう）

チェコスロバキア以外の東欧の切手は、とても「ザ・共産圏のプロパガンダ」臭が漂っているのだが、チェコスロバキアはそれがとてつもなく薄い。ひょっとすると、その一因はLieslerさんのようなアーティストがデザインするせいなのかもしれない。

ということで、来月は別の作家さんのチェコスロバキア切手を紹介したい。何しろ、マイ・コレクションのうちチェコスロバキアは比較的まとまっているから、紹介し易いという都合もあったりする... けど、やはり結構魅力的なラインナップなのである。

グラムボックス物語1

どうしようか悩んでいたが、買ってしまったキロボックス。ではなく、その下のサイズです。

日本切手紙有り400g 700円

日本切手紙無し400g 2000円



どこで買ったかは、まあここでは触れません。

もともと、（私も子供のころせっせと貢献した）慈善活動として寄付された使用済み切手が、どのように現金化されるのに興味もあったので、少しネットで検索したら、切手商だけでなく個人にも販売してくれるところを見つけたのです。が、意外に意外、結構人気商品の品薄らしく、7.5キログラムのキロボックスは販売停止、今回私が申し込んだ商品も「1回の申込1ヶ月につき5個以内」までの限定だった。

私の計算によると、

紙有りは、1g ... 5枚なので、400g ... 2000枚だと0.35円/枚

紙無しは、1g ... 11枚なので、400g ... 4400枚だと0.45円/枚

となるので、手間隙を考慮すれば断然、紙無しがお得。だけど、内容物（普通切手の割合ね！）にも依るので結局気になって両方買ってみた。

まあ、来月から（編み物など、規則的な作業による脳味噌リラックスできない私は）夜にちょこっとずつ仕分け作業に取り組んでみる。詳細な内容物の報告は追々します。

編集後記

洲之内徹さんの美術エッセイ「気まぐれ美術館」にあやかって、このタイトルにしてみた。真似っこだけど、自分の気持ちに一番しっくりくるような気がしている。

コレクション作業もそうであるが、こういうのを続けるとは、日々の準備と手順に依るところが多い。いかに簡単に段取り良くこなすか、料理の下ごしらえと同じかも。日頃、職場でも似たような雑事をこなしているが、慣れてしまえば、難しいことではない。重要なのは、それを続けることかな。

この活動を続けながら、精度の高い緻密なコレクションができ上げてゆけば、コレクター冥利である（が、そんな時間あるかな。あ、暇はあるかな）。